

| | |
|----|----------------|
| 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|----|----------------|

| | | | |
|-----------------------|----------------|-----------|------------|
| ○事業所名 | 音楽療育支援教室 どれみの森 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年 1月 25日 | ～ | 令和7年 2月 9日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 25 (回答者数) | 19 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年 1月 25日 | ～ | 令和7年 2月 9日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 4 (回答者数) | 4 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年 2月 19日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽プログラムが6つ、学習プログラム4つあり、お子さんが飽きずに、満足にいく内容を提供している。 フリープログラム、集団プログラム、レクリエーション等もあり、児童が期待と楽しみをもって来所している。 | <ul style="list-style-type: none"> 各プログラムを週替わり、日替わりで内容を変えている 静と動の活動を組み合わせている。 利用曜日のメンバーに合わせて、支援の仕方を変える。 学年が上がっている児童には、チームワーク向上やリーダーシップがとれる働きかけをする。 楽しく活動し色々な力を身につけられるようにしている | <ul style="list-style-type: none"> 子ども達が積極的に考えて、伝えて、行動して、気づきを得る活動内容を考案、計画していく。 時代に合わせたプログラムの内容を展開していく。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 療育・保育の面で経験豊富な職員が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の振り返り、反省、今後の支援方法をみんなで確認し合う。 模擬授業を行い、より良い療育が行えるようにみんなで意見や考え、アドバイスをし合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 勉強し合い、情報交換し合い、スキルをあげていく。 新人の職員の育成を丁寧に行い、失敗しても気づきを得て自分の力になる指導を心がける。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 長年通われている児童が多いことで、仲が良く、全体的に良い雰囲気が出ている。 保護者と職員との情報伝達や相談、子育ての助言をしっかりと行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 集団遊びや活動の中で、児童の良い面を引き出したり、集団に伝えていく。職員が仲介役になり、コミュニケーション場面を増やしていく。 短時間だが、保護者に内容のある事柄を伝えて話し合い、信頼安心して通所できるように対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> 心豊かな人になるためにも、児童発達支援のお子さんを受け入れて小さい子と触れ合ったり、地域や他放デイの方との交流を増やしたりしていきたい。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援サービスと放課後等デイサービスを同時に提供する際に居場所がなくなる。 | <ul style="list-style-type: none"> 療育フロアが一つしかなく、隣接する部屋も区切りがないために、同時に過ごすことができない。 | <ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービスの方で、社会体験等の外出に出かけ、療育スペースを児童発達支援サービスにわけわたす。 休止している他事業所を有効に使い、居場所とする。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |